



需要と消費者志向、それと大量生産と消費

令和6年9月30日

黒田インターナショナルコンサルティング

黒田 毅

これらは、市場における消費者需要が、その購買意欲とともに、グローバル化と統一とそれらへの製品提供における生産体制において、価格と市場の占有を実現できることを意味する。

これら現実において生産体制をその先端性とともに整備することは、その新たな生産性とコスト基準において、市場の占有と固定利益の永続化を可能とできるのである。

これらはアメリカにおける大量生産と消費という現実が、サーキュラエコノミーとゼロエミッションにおいて、完全に肯定されることを意味するものである。

これらは、既存価値観の完全な転換である。また大量生産は、製品の向上とコスト削減などが、新たな生産企業システムの構築において、高い生産性への転換と自動化におけるコスト削減を与え、企業体力や現実を遥かに優れたものとできるのである。

これらは消費者嗜好や需要への的確な製品提供とともに、企業が飛躍的な向上と新たな現実への参加を実現できるのである。

これらは現状のインフレスパイラルに対して新たな現実を提供することは可能であると考ええる。

これらは新しい企業における現実を与えるものであり、企業の規模の拡大はその生産性の拡大と効率化や改善において、企業の自己プレゼンスが確固としたものとして確立できるのである。

これらは新たなMBAシステムなどとともに、企業環境や風土、システムや環境が、飛躍的な変化と向上を有することができることを意味するものである。

これらは企業の倫理的判断や環境がその時代基準に順応し、より優れた企業経営の確立を現実化できることを意味するものである。